

7月11日の降雹等に対する農作物技術対策(第一報)

令和3(2021)年7月12日

下都賀農業振興事務所

1 ぶどう

(1) 被害状況の確認

- ・降ひょうのあったほ場は、除袋して被害の状況を良く確認する。
- ・突風により新梢やカサが外れた場合は、新梢誘引やカサかけを見直す。

(2) 病害防除の徹底

- ・葉や新梢が損傷した場合は、速やかに殺菌剤を散布し、主要病害の発生予防に努める。
また、袋かけが完了していないほ場は、薬液の付着汚れの少ない薬剤を選ぶ。

(3) 摘粒作業

- ・被害の少ないほ場では、傷や打撲した果粒を除去し、袋かけを行う。
- ・果粒軟化期以降の被害果房は、腐敗しやすいため、こまめに巡回して腐敗した果粒を取り除く。

(4) 新梢管理

- ・葉や新梢の損傷がひどい場合は、副梢の多発が懸念されるため、摘心などの新梢管理を徹底する。なお、新梢の切り戻しなどの枝の整理は、副梢の発生を助長するので控える。

(5) 着果管理

- ・葉の損傷がひどい場合は、被害のひどい果房から摘房するなど、必要に応じて着房数を見直し、樹勢維持を図る。